

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年9月

業所名 放課後等デイサービス サーバントホース

	チェック項目	実数			割合	
		はい	いいえ	合計	■ はい	■ いいえ
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	6	0	6	100%	0%
	2 職員の配置数は適切であるか	6	0	6	100%	0%
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	6	0	6	100%	0%
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	6	0	6	100%	0%
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	6	0	6	100%	0%
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	6	0	6	100%	0%
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	6	0	6	100%	0%
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	6	0	6	100%	0%
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	6	0	6	100%	0%
	10 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	6	0	6	100%	0%
	11 活動プログラムの立案をチームで行っているか	6	0	6	100%	0%
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	6	0	6	100%	0%
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	6	0	6	100%	0%
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	6	0	6	100%	0%
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	6	0	6	100%	0%
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	6	0	6	100%	0%
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	6	0	6	100%	0%
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	6	0	6	100%	0%
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	6	0	6	100%	0%
20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	6	0	6	100%	0%	

関係機関や保護者との連携	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	6	0	6	100%	0%
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	6	0	6	100%	0%
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	6	0	6	100%	0%
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	6	0	6	100%	0%
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	6	0	6	100%	0%
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	6	0	6	100%	0%
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	6	0	6	100%	0%
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	6	0	6	100%	0%
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	6	0	6	100%	0%
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	6	0	6	100%	0%
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	6	0	6	100%	0%
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	6	0	6	100%	0%
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	0	6	100%	0%
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	6	0	6	100%	0%
	35	個人情報に十分注意しているか	6	0	6	100%	0%
	36	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	6	0	6	100%	0%
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	6	0	6	100%	0%
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	6	0	6	100%	0%
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	6	0	6	100%	0%
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	6	0	6	100%	0%
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	6	0	6	100%	0%
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	6	0	6	100%	0%
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	6	0	6	100%	0%

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：2023年9月

事業所名

放課後等デイサービス サーバントホース

		チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	屋外と屋内の活動スペースを有効に活用している。	安全・安全に配慮すること、スペースを活動や子ども達の状況に合わせて有効に使用し支援に活かしたい。
	2	職員の配置数は適切であるか	適切である。	馬の活動を行うにあたり人員の確保と適切な配置、安心安全を第一に活動を行っていくことを常に強く意識している。その維持に注意したい。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	スロープを設置している。	既にスロープの設置もあるが身体機能アップのため、段差が安全のなか訓練に繋がれるか工夫する。リスクがある場合は必要に応じて段差の解消等できる備品は増やしたい。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	支援前後のミーティングを行っている。	活動の実施、振り返り、改善点、更に伸ばしていく点などを皆で話し合い、あげられるポイントを次回の活動やそれに繋がる他の事に反映させていく。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	全員が閲覧し、改善点は職員間で会議を行っている。	常に改善できる点はないかと自己を振り返り全員でより良いサービスに繋がれるよう努めていきたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	ホームページで公表している。	分かりやすくお伝えしたい。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	ホームページで公表している。	評価結果を全職員が閲覧し、更なるサービスの向上につながるよう実行に移すことが課題。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	研修の情報を公表し、個々の希望する研修に参加している。	各機関が開催する研修、会社主催の研修に参加し職員全体の質の向上、得たものが実際の現場へ反映されることが課題。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか	アセスメントツールの活用、保護者様・相談員から、情報を収集して作成。学校の先生とのコミュニケーション、情報の交換にも力を入れている。	児童発達支援管理責任者を中心に各職員が積極的に意見を交わし、共有された継続的な支援に繋がるようにする。
	10	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	使用している。	必要に応じて発達検査等を実施し利用者様の実態に即した支援ができるよう家庭と共通理解ができるよう努めていく。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っているか	児童発達支援管理責任者を中心に集団から個別にも繋がる活動を話し合っている。	活動内容に段階付けがあり、個々の子ども達にどうアプローチされる内容のものであるか、安定と変化を保ちつつ実施されているかを常にチェックしていく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	季節感、見当識、生活感を年間を通して取り入れることを意識しプログラムに反映させている。	固定化でなく基盤となるものを活動の核としてこれを置きながら、様々な角度から、集団、個々にアプローチできる要素を活動に盛り込んでいく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか	平日の放課後、長期休みのご自宅からスタートする子ども達のリズムに注意している。	平日や土曜日、長期休み等それぞれ子ども達のホースに来られるまでの流れ、リズムも違うため、画一的な目線、支援とならないよう注意する。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成しているか	集団活動一辺倒ではなく、集団活動のなかにも個々にアプローチできる要素を組み込んでいる。	輪の共有、集団、集団内の個別、集団活動内容が子ども達に一辺倒にならないよう個々にアプローチできる要素を職員全員が理解、実施することに注力する。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	役割分担が子ども達の個々の支援の妨げにならないよう注意している。個々に支援が行き届く配置を意識している。	子ども達それぞれ個々の支援に対して、職員の動きが合理的で円滑に流れるようであればならない。配置する側も、される職員もその配置の意味が支援を念頭に理解、イメージし実施できなければならない。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	支援後のミーティング、個別の支援記録作成時の意見の交換を軸としている。	時間の確保、その日出勤していない職員も含め全職員への伝達を更に充実させたい。
17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	どうアプローチし、どうなったかを特に注意し記録するようにしている。	行動に現れた内面を読み取ること、どう職員が動き対応していくかについて更に掘り下げていく。	

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか	半年に1度モニタリングを行っている。	保護者様からの情報を支援に反映させていけるように職員と情報の共有に務める。
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか	ガイドラインに沿っているかの確認を行っている。	職員が理解して支援できるように更なる周知・理解に努める。
関係機関や保護者との連携	20 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	児童発達支援管理者または児童指導員が参画している。	全ての職員が同等に同様に参加できるようにしたい。最もふさわしい者が全員でないといけない。
	21 学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	日々、学校との連絡、連携を行っております。	お互いが積極的に連絡を取り合えるような関係の構築を日々のコミュニケーションのなかから育てていく。
	22 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか	契約時に同意書を頂いている。	家庭と連絡を取り合いながら、必要に応じ適宜他機関と連携が図れるよう、どう動かかの周知を行う。
	23 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか	児童発達支援事業所と入学前に会議を行っている。	途切れのない支援のために更なる連携に努めていきたい。
	24 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか	必要に応じて積極的に行う。	情報提供、共有は常に積極的に行えるよう、反映できるよう書類等日々の業務を漏れなくしっかり行う。
	25 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	密に連絡を取り合っている。必要に応じ即時連絡を取り合っている。	普段何気ないことから連絡し合えるようお互いを頼りにできる連携を作りたい。
	26 放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	公園などで交流することがある。	安全・安心を確保しながら継続して行いたい。
	27 （地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか	適宜参加できるよう注意している。	参加できる機会を逃さないように努めていきたい。
	28 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	送迎時やお迎えに来た際、何かあれば電話等で即時様子をお伝えしている。	直接お伝え出来ない場合は連絡帳を活用し、家庭との連絡を密にし情報共有に努めていきたい。
	29 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか	定期的なモニタリングを行い、お困りなことが把握できるよう努めている。	家庭での様子を聞き、家庭でもできる支援を提案し、ホースでもおうちでも同じように支援ができるよう共有したい。
	保護者への説明責任等	30 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	契約時に説明を行っています。
31 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか		直接のお話、電話、連絡帳等を通じて連絡を取り、相談支援とも共有している。	早期に具体的なお話ができるよう、ホース内での話し合いに留まらず、サーバントの各事業所へも投げかけて助言を得て、より必様な助言となるよう意識して行っている。
32 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか		親子参加の活動、行事の際には交流をしていただいている。	コロナ禍も過ぎ、親子での参加の機会が増えるよう、活動や行事を見直していく必要がある。
33 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか		苦情受付窓口を契約時の書類に記載。苦情がある場合、施設長、上長へと報告し組織で把握、対応する体制が出来ている。	関係者からの聞き取りやその後の対応を迅速に行うため、組織内での報告の素早さ、決定と対応の円滑に行う。一事業所のみで判断解決することなく報告を必ず行う
34 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか		毎月の請求書等と共にかかわら版など情報を送管している。	今後も安心して楽しく利用して頂ける事業所を目指し周知できるように努めていく。
35 個人情報に十分注意しているか		研修を行い、個人情報保護法を理解した上で書類等厳重に取り扱いをしている。	個人情報の記載された書類等は書庫で保管、施錠している。また職員の言動から守秘義務や個人情報が漏れることが無いよう十分に注意し徹底する。
36 障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか		行政との連携や、通訳を挟んで情報伝達を行っている。	必要な利用者様には迅速に対応できるように努めていきたい。
37 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか		イベントの開催時には地域住民へ告知を行いご参加頂いています。	年間計画を適宜見直しを行い開かれた事業所運営となるように努めてまいります。
38 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	事業所入り口に掲載し、保護者にも周知している。	掲載、貼り出し箇所の見やすさ、分かりやすさ、配置を定期的に確認し、緊急時等のロールプレイングを実践的に行います。	

	チェック項目	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	39 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	年2回、様々なケースを想定して防災訓練を行っている。	地震、火事等様々なケースを想定し、より実践的な訓練となるよう努めます。
	40 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	全職員が必須研修として定期的に受講しています。	安全で安心な開かれた事業所となるよう、職員同士が柔軟に指摘し合える良好な関係、虐待に対する正しい理解と行動を常時発揮できるようにします。
	41 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	会社方針で基本的には身体拘束は行いません。契約時にご説明申し上げます。	生命の危機に際して等、身体拘束が必要な場合は即時の保護者への連絡、上長への報告と確認、可能な限り短時間での拘束の解除、記録への記載は必然としてこれを行います。
	42 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	契約時に書面にて確認しております。	該当する利用者様には職員間の周知徹底に努め、保護者様との連携を怠らぬよう、少しでも疑問に思ったらご連絡、確認をする。
	43 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	小さなことが気兼ねなく報告でき、周知、共有できるようにしている。	こんな小さなことまで、、というところまで意識して声上がるようにする。ヒヤリハットは多く、アクシデントは0の事業所を目指します。